

## 21世紀の日本のかたち（141）

### 2023年、酷暑の夏



戸沼幸市

<（一財）日本開発構想研究所 顧問>

#### 1. 酷暑の夏 2023年7月・8月

今年の夏の暑さは猛暑を越えて酷暑でした。私の住む東京・練馬区で連日35℃を超え、日中は40℃を超える日もあり、一日中、夜もエアコンを点けての生活となりました。

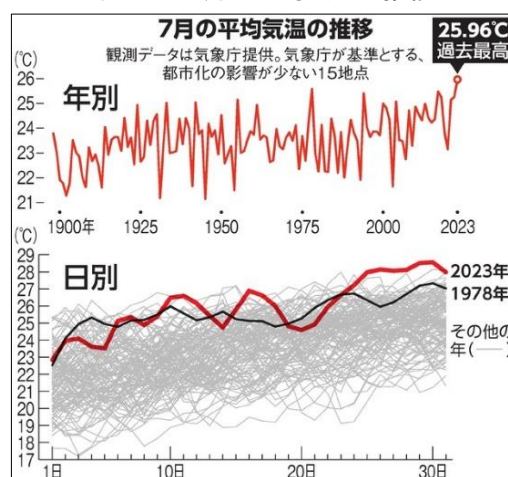
気象庁の観測データによると、この126年で7月の平均気温が1.5℃ほど上昇、今年の7月は、日本の観測史上、平均気温が最も高く、1978年から45年ぶりに記録更新とのことです。たしかに2000年頃から、夏、居座る猛暑を感じます。

世界的に見ても世界気象機関（WMO）によると、7月の世界の平均気温は12万年ぶりの暑さだったとか。国連のアントニオ・グテーレス（António Guterres）事務総長は、「温暖化の時代ではなく、地球沸騰化となった」“the era of global boiling has arrived”と表現しました。

こうした地球沸騰は、エルニーニョ等を媒介に、豪雨とそれに伴う災害や早魃、水不足、山火事などにも繋がっており、農業にも深刻な影響を与え、食糧の安定供給が脅かされることとなります。

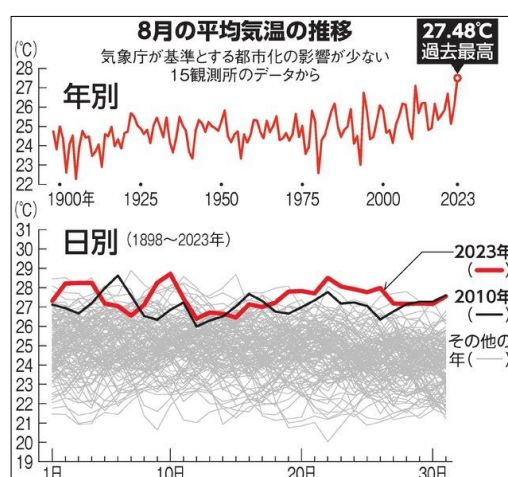
「今のままの温暖化対策では今世紀末までに世界の5人の1人が住むに適さない危険な暑さに晒されている」との研究報告（英、エクセター大学などのチーム）もあります。

図1 7月の平均気温の推移



資料：朝日新聞 2023.8.2

図2 8月の平均気温の推移



資料：朝日新聞 2023.9.2

7月に続き8月もここ126年で最も暑い夏でした。

温暖化対策の国際ルール「パリ協定」では産業革命からの世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑える目標（この場合、危険な暑さに当面するのは4億人程度）を掲げていますが、このまま気温が2.7℃上昇すれば、世界人口の22%（20億人）になるとの試算を出しています。21世紀、地球に棲む人間の知恵が試されています。

## 2. 戦後78年—太平洋戦争 終戦（敗戦）の日

### 2-1. 広島・長崎原爆忌

昭和16（1941）年12月8日、当時小学2年生だった私には、日本軍のハワイ真珠湾の奇襲、米英への宣戦、太平洋戦争が始まった日のことを今も記憶として残っています。昭和18（1943）年5月、アッツ島の日本軍が全滅したときに、従兄弟が戦死しました。

昭和20（1945）年4月1日、米軍が沖縄本土に上陸。8月6日、米軍、広島に原子爆弾投下。8月8日、ソ連対日宣戦布告。8月9日、長崎に原子爆弾投下。8月14日、日本がポツダム宣言を受諾。8月15日、天皇の終戦（敗戦）の詔書放送。私も8月15日のこの放送を自宅のラジオで聴いており、78年経った今も記憶に残っております。

今年の暑い夏、8月6日の広島では78回目の原爆忌が平和公園（広島市中区）で行われました。参加者は111ヶ国の大使らで過去最多とのことでした。

#### 広島市長平和宣言（抜粋）

78年前の原爆投下の日を、まるで生き地獄のようだったと振り返る当時8歳の被爆者は、「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。・・・（中略）・・・」と訴えています。

・・・（中略）・・・G7で初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書としてまとめられ、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認されました。

・・・（中略）・・・

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちに厳しい現実から理想へと導くための具体的な取組を早急に始める必要があるのではないのでしょうか。

・・・（中略）・・・

広島市は、世界166か国・地域の8,200を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民レベルでの交流を通して「平和文化」を世界中に広めます。・・・（中略）・・・被爆者の平和への思いを世界中の若者に知ってもらい、国境を越えて広め、次世代に引き継げるようにするために、被爆の実相に関する本市の取組をさらに拡充していきます。

・・・（中略）・・・

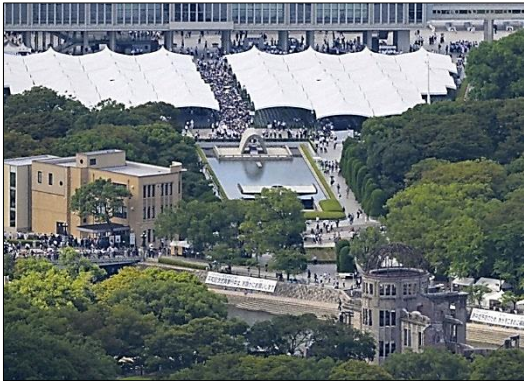
日本政府には、被爆者を始めとする平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、核保有国と非核保有国との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただきたい。・・・（中略）・・・平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆78周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和5年（2023年）8月6日

広島市長 松井一實

写真1 原爆慰霊碑に向かって列を作る  
大勢の人たち



資料：毎日新聞 2023.8.7

写真2 原爆慰霊碑の方を向き、  
投下時刻に合わせて黙とうする人たち



資料：毎日新聞 2023.8.7

8月9日、長崎はあいにくの雨でした。平和式典は市内の講堂で行われました。

長崎市長平和宣言（抜粋）

1945年8月9日午前11時2分、長崎の上空で炸裂した1発の原子爆弾により、その年のうちに7万4千人の命が奪われました。生き延びた被爆者も、数年後、数十年後に白血病やがんなどを発症し、放射線の影響による苦しみや不安を今なお抱えています。

・・・(中略)・・・

長期化するウクライナ侵攻の中で、ロシアは核兵器による威嚇を続けています。他の核保有国でも核兵器への依存を強める動きや、

核戦力を増強する動きが加速し、核戦争の危機が一段と高まっています。

今、私たちに何が必要なのでしょうか。

「78年前に原子雲の下で人間に何が起こったのか」という原点に立ち返り、「今、核戦争が始まったら、地球に、人類にどんなことが起きるのか」という根源的な問いに向き合うべきです。

・・・(中略)・・・

核保有国と核の傘の下にいる国のリーダーに訴えます。

今こそ、核抑止への依存からの脱却を勇氣を持って決断すべきです。人間を中心に据えた安全保障の考えのもと、対決ではなく対話によって核兵器廃絶への道を着実に歩むよう求めます。

・・・(中略)・・・

被爆者は、思い出すのも辛い自らの被爆体験を語ることで、核兵器がいかに非人道的な兵器であるのかを世界に訴え続けてきました。この訴えこそが、78年間、核兵器を使わなかった「抑止力」となってきたのではないのでしょうか。

その被爆者の平均年齢は、今年85歳を超えました。被爆者がいなくなる時代を迎えようとしている中、この本当の意味での「抑止力」をこれからも持ち続けられるか、そして核兵器を廃絶できるかは、私たち一人ひとりの行動にかかっています。

・・・(中略)・・・

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げるとともに、長崎は、広島、沖縄、そして放射能の被害を受けた福島をはじめ、平和を希求するすべての人々と連帯し、「平和の文化」を世界中に広め、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2023年（令和5年）8月9日

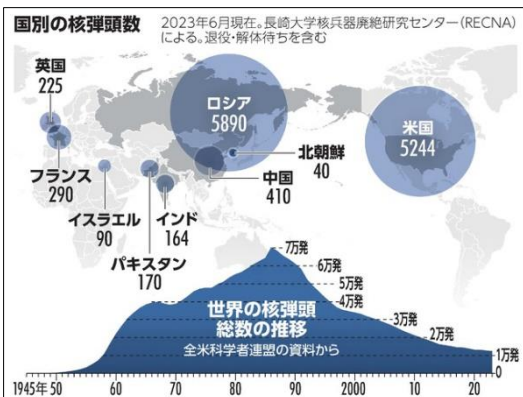
長崎市長 鈴木史朗

写真3 今こそ、核抑止依存からの脱却を。  
 不変の祈り、長崎被爆78年  
 (平和公園では、台風6号の影響で雨が降る中、  
 手を合わせる人たちの姿があった)



資料：朝日新聞 2023.8.9

図3 国別の核弾頭数



資料：朝日新聞 2023.8.7

## 2-2. 全国戦没者追悼式

終戦から78年となった今年8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で行われました。この日、台風7号の影響で10府県の遺族が参加を見送り、約800人が欠席、約1,600人の参列者が先の大戦で亡くなった310万人を悼みました。私も式典の様子をテレビで見つつ、会場の方々の1分間の全員の黙禱に目を閉じ手を合わせました。

追悼式の参列者は戦後生まれが4割を超え

ているとのこと。主催者の岸田文雄首相、天皇陛下も戦後のお生まれです。まさに戦後78年を感じます。

### 天皇陛下のお言葉

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

戦以来78年、人々のたゆみない努力により、今日わが国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

これからも、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります。

### 岸田文雄首相の言葉

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、戦没者の御遺族、各界代表の御列席を得て、全国戦没者追悼式を、ここに挙行いたします。

・・・(中略)・・・

今、すべての御霊の御前にあつて、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。

・・・(中略)・・・

いまだ帰還を果たされていない多くの御遺骨のことも、決して忘れません。国の責務として、御遺骨の収集を集中的に実施し、一日も早くふるさとお迎えできるよう、引き続き、全力を尽くしてまいります。

戦後、我が国は一貫して、平和国家として、その歩みを進めてまいりました。歴史の

教訓を深く胸に刻み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてまいりました。

・・・(中略)・・・

いまだ争いが絶えることのない世界にあって、我が国は、積極的平和主義の旗の下、国際社会と手を携え、世界が直面する様々な課題の解決に、全力で取り組んでまいります。

終わりに、いま一度、戦没者の御霊に平安を、御遺族の皆様には御多幸を、心よりお祈りし、式辞といたします。

今から28年前、戦後50年に村山首相の談話、「痛切な反省」と「心からのお詫び」という言葉が岸田首相の式辞からは消えてしまっています。

写真4 全国戦没者追悼式で  
献花をする参列者



資料：毎日新聞 2023.8.16

写真5 全国戦没者追悼式に参列するため、  
日本武道館の階段を上る遺族ら



資料：朝日新聞 2023.8.15

8月15日、終戦から78年、身元の分からない約37万柱の遺骨が眠る東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、花を手向け手を合わせる多くの遺族の方々の様子が報じられました。

写真6 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 終戦から78年



朝日新聞 2023.8.16

写真7 千鳥ヶ淵戦没者墓苑  
黙とうする人たち



資料：朝日新聞 2023.8.16

### 注記) 近代日本の戦争史

#### 1. 日清戦争：1894～95（明治27～28）年

眠れる獅子と呼ばれる強国、清の南下政策に対する日本の反応。日本軍の反撃、旅順占領。

日清講和条約調印：1895（明治28）年

・遼東半島、台湾、澎湖列島の割譲

#### 2. 日露戦争：1904～05（明治37～38）年

世界の5大強国、帝政ロシアとの戦争。

日本海海戦。旅順のロシア軍降伏、日本軍樺太上陸。

日露講和条約調印（韓国保護権、南樺太・遼東租借権などを獲得）

- 3. 韓国併合：1910（明治43）年
- 4. 第一次世界大戦：1914～18（大正3～7）年  
日本参戦（ドイツに宣戦布告）  
日本軍シベリア出兵：1918～22（大正7～11）年  
（関東大震災：1923（大正12）年）
- 5. 第二次世界大戦：1939～45（昭和14～20）年  
日独伊三国同盟締結：1940（昭和15）年  
太平洋戦争：1941～45（昭和16～20）年  
日本、米英に戦争宣言。ハワイ真珠湾奇襲：1941（昭和16）年12月8日  
無謀な戦線の拡大。

- ・ 中華民国、北京、南京、満州国、樺太、千島列島
  - ・ 太平洋地域、タイ、スマトラ、ジャワ、セレベスなど
- 1945（昭和20）年4月、米軍、沖縄本島に上陸（守備軍全滅）  
8月6日広島、8月9日長崎に原子爆弾投下

### 3. 夏の甲子園、慶應107年ぶりの優勝

この8月23日、第105回全国高校野球選手権大会が阪神甲子園球場で決勝戦があり、慶應（神奈川）が昨年の優勝校、仙台育英（宮城）を8：2で破って優勝旗を手に入れました。

慶應普通部として出場した1916（大正5）年の第2回大会以来の107年ぶり（甲子園球場前・豊中グラウンド）とのことです。慶應は甲子園では初優勝。

今年の甲子園に残った8強のうち、東北勢は仙台育英、花巻東、八戸学園光星の3校にもなり、また、慶應、土浦日大の関東勢もあり、東高西低の感があります。

図4 全国高校野球選手権大会、8強の顔ぶれとトーナメントの勝敗



資料：朝日新聞 2023.8.24

8月23日、午後2時に始まった慶應對仙台育英の決勝戦の様子を、どんな展開になるのかと自宅のテレビを注視したことでした。甲子園球場のアルプススタンドの観覧席はほぼ満員。そのうち慶應の応援席が半分以上も埋まっているという異常な熱気が伝わってきます。

試合が始まって1回、慶應の丸田選手の史上初の先頭打者アーチ、ホームランが飛び出しました。慶應側は総立ちです。仙台育英も打ち返し、序盤は3：2。試合は5回に動きまわりました。慶應が仙台育英の二本柱を打ちくだいて、一挙5点を入れて試合を決定づけました。

図5 全国高校野球選手権大会、決勝の経過

▷午後2時開始（観衆4万2100人）	
慶	應（神奈川）
	2 1 0 0 5 0 0 0 0   8
	0 1 1 0 0 0 0 0 0   2
仙 台 育 英	（宮 城）

写真8 慶応（神奈川）3年、丸田湊斗選手



資料：AERA 2023.9.4

この間、慶應側の大声援に仙台育英の守乱もありました。仙台育英は慶應応援団の圧倒するスタンドからの風圧に少なからず戸惑い、そして萎縮しているようにも見えました。

今年の甲子園での頂点を目指した全国高校野球選手権大会、全国3,486校の闘いは酷暑の夏、慶應義塾高等学校の優勝をもって、甲子園での18日間の幕を閉じました。

写真9 優勝を決め、喜ぶ慶応の選手たち



資料：朝日新聞 2023.8.24

#### 4. 福島第一原発処理水、海への放出

2011（平成23）年、東日本大震災、福島原発事故から12年ぶりに、東京電力はこの8月24日、福島第一原発の処理水の海への放出を

始めました。少なくとも30年間は放出が続くとのことです。東電は24日午前、海水で希釈した処理水のトリチウム濃度の測定結果が1リットルあたり1,500ベクレル（国の放水基準の1/40）と発表しております。東電の計画ではタンク約30基分、約31,200トン を4回に分けて放出するとのことです。

図6 処理水放出計画のイメージ



資料：朝日新聞 2023.8.25

図7 処理水の海洋放出が始まった東京電力福島第一原子力発電所



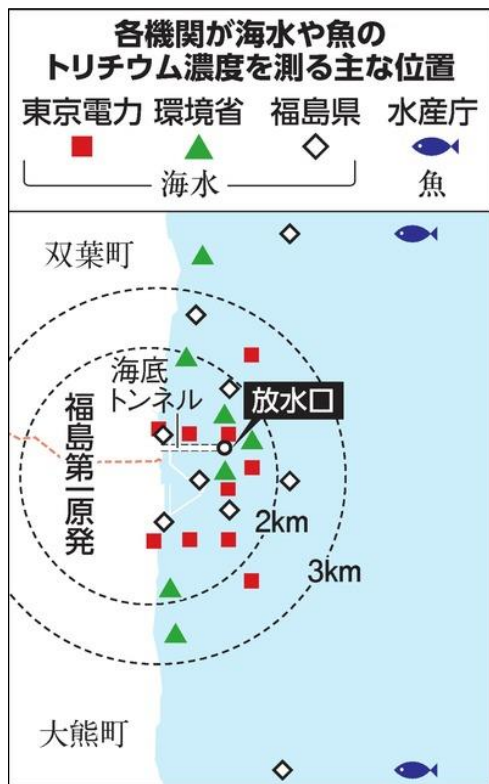
資料：朝日新聞 2023.8.25

今回の東電の決定に対して、日本では一部水産関係者の反対がありましたが、中国政府はただちに「断固たる反対と強烈な批判」を示すと報道官談話、「海は日本の下水道ではない」中国外務省などと発表しました。中国と香港は原発事故後、福島など10都県からの食品輸入を禁止してきましたが、改めて日本

産水産物の全面輸入禁止を表明しました。原発の処理水放出からこの数日、中国から東電、福島県の旅館、飲食店に嫌がらせの電話が次々と掛かってきています。

今後の日本政府の対応が注目される事態です。

図8 福島第一原発周辺で各機関がトリチウム濃度を測る主な位置



資料：朝日新聞 2023.8.25

## 5. 関東大震災100年

今年、2023（令和5）年9月1日は1923年（大正12）年、関東大震災（M7.9）が起きてから丁度100年になります。1868年（明治）元年に首都東京が出来てから半世紀を過ぎた時期でした。当時の東京は下町一帯、木造体質木密地帯でした。ここに地震による火災が広がり、全壊全焼29万棟、死者不明者10万人となりました。また、当時の記録によると「朝

鮮人が放火している」と流言が広がり、朝鮮人虐殺の理不尽な悲劇が起きています。

図9 関東大震災の被害概要

関東大震災の被害の概要		2023年版防災白書から	
発生年月日	住家被害棟数	死者・行方不明	
1923(大正12)年 9月1日(土曜日) 午前11時58分	神奈川県 12万5577棟	3万2838人	
地震規模 マグニチュード7.9	東京府 20万5580	7万387	
直接死・行方不明	千葉県 1万9976	1346	
約10万5千人 うち焼死約9割	埼玉県 8845	343	
全壊・全焼住家 約29万棟	山梨県 2802	22	
	静岡県 9259	444	
	茨城県 483	5	
	長野県 88	0	
	栃木県 4	0	
	群馬県 45	0	
	合計 37万2659棟	10万5385人	

資料：朝日新聞 2023.9.2

この大震災の後、後藤新平ら震災復興による帝都震災復興計画一区画整理、道路、公園などの整備がなされました。

関東大震災から100年、現在、今後30年以内に首都直下型地震（M7クラス）の起きる確率が70%とされています。

東京一極集中の首都東京の有り様について改めて根本的検討が迫られています。

震災については切迫している南海トラフ地震の問題もあります。

今次、国土形成計画の中心課題のひとつに違いありません。

2023.09.04